



物づくりが
大好きだった
子供のころ
そのまま“今”に
つながっています。

株式会社タダノ 志度工場



CORPORATE PROFILE

株式会社タダノ

本社：〒761-0185 香川県高松市新田町甲34
tel.087-839-5555

資本金：130億21百万円(平成17年7月1日現在)
従業員数：1,026名(平成17年3月末現在)

1955年油圧式トラッククレーンを国内で初めて開発、現在、No.1クレーンメーカーとして世界の業界を牽引。主な製品に建設用クレーン、車両搭載クレーン及び高所作業車など。「No.1 and the Next」、さらなるNo.1を目指し、街の創造と国土の発展、豊かな未来へ向けて挑んでいる。

山田圭介

PROFILE

やまだ けいすけ
株式会社タダノ
開発部高所開発ユニット
香川大学工学部卒業



私の仕事はクレーンの設計です。クレーンには重いものを吊り上げる大型クレーンから、街でよく見かけるトラックに架装した小型クレーンまでいろいろありますが、私は電線工事や高速道路工事などで人が載るバケット(デッキ)が付いた「高所作業車」を開発しています。

入社して初めて手がけたのは、高所作業車「スーパーデッキ」のモデルチェンジでした。タダノはプロジェクト制で商品開発を行うのですが、社内の開発、制御、構造解析、油圧などの各部署が集まってチームを作る、と云ったら分かりやすいでしょうか。先輩に教わりながら図面を描いたり性能計算などを行い、約1年かけて完成させました。

作業を進めると、設計図面と商品の出来上がりに差が出ることもありま

けた経験も……。それだけに自分が描いた通りにクレーンが上がった時には感動します。入社して4年、自分がメインで開発に携わってきたものは最初のものを含めて2機種ですが、どちらも思い入れがあります。

私が就職活動をしていた2001年は、ITバブルがはじけて企業がコストダウンを図り、社会的にも厳しい状況でした。でも「何かを作りたい!」、この一点だけは譲れなかった。自動車メーカーも回りましたが、エンジンやドアなどの部品だけを作るスペシャリストと、自分が目指す方向性は、やはり違うような気がしたんです。物づくりへの思いを強くしていた時に出会ったのが、職種別採用をしていたタダノでした。

私は「高所開発ユニット」に所属していますが、ひとつのクレーンを設計するためには、強度や安全性はもちろ

ん、どうすればお客様にとって使いやすいか? そのためのコストは? など、クリアしなければいけないポイントが山積みです。原材料の価格を考慮したり、車検に適合させるために重量、寸法、灯火に関する道路交通法などの知識も必要になるなど、設計だけでなく全体を見渡す視点が必要。考える範囲が広くて大変なときもあります。が、そのぶん大きな手応えを感じます。

香川大学での4年間ですか? うーん、普通に真面目だったんじゃないかな(笑)。実は小さい頃から何かを始めるとのめり込むタイプ。出来上がり想像しながらプラモデルを作り込んだり、機械を設計するのが好きだったこともあり、最初から工学部志望でした。ゼミでは宇宙遠隔操作の研究をしましたし、サークルはパソコン系の「CSS」で、大学の4年間はずっと物づくりをしていた気がします。今の

仕事と直接リンクはしていませんが、ひとつのシステムを組むにあたっての作業の進め方は同じです。

私の物づくりは全体図を思い描くことから始まります。今はさまざまな制限がある中でひと通りの設計が組めるようになりたい。「自分が作った」と自信を持って言える仕事をするのが目標です。今もこの先も、根底にあるのは物づくりが大好きだった子どもの頃の気持ち。それを忘れずにいようと思います。